先発品との比較表										
					後 発 品			標 準 品		
会		社		名	大原薬品工業株式会社					
商		品		名	<b>パロキセチン錠20mg「オーハラ」</b> (日本薬局方 パロキセチン塩酸塩錠)		該当なし			
薬				価	26.60	円/錠		_	円/錠	
薬	剤	料		差		_	円			
П	_	ド	N	o.* <sup>)</sup>	1179041F2188			_		
成		分		名	パロキセチン塩酸塩水和物					
規				格	1錠中日局パロキセチン塩酸塩水和物22.76mg(パロキセチンとして20mg)を含有					
添		加			リン酸水素カルシウム水和物、ヒプロメローコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシ 三二酸鉄、カルナウバロウ	_				
薬	効		類		選択的セロトニン再取り込み阻害剤					
効	能	•	効	果	うつ病・うつ状態、パニック障害、強迫性障害、社会不安障害、外傷後ストレス障害					
用	法		用	旦里	うつ病・うつ状態:通常、成人には1日1回夕食後、パロキセチンとして20~40mgを経口投与する。投与は1回10~20mgより開始し、原則として1週ごとに10mg/日ずつ増量する。なお、症状により1日40mgを超えない範囲で適宜増減する。パニック障害:通常、成人には1日1回夕食後、パロキセチンとして30mgを経口投与する。投与は1回10mgより開始し、原則として1週ごとに10mg/日ずつ増量する。なお、症状により1日30mgを超えない範囲で適宜増減する。強迫性障害:通常、成人には1日1回夕食後、パロキセチンとして40mgを経口投与する。投与は1回20mgより開始し、原則として1週ごとに10mg/日ずつ増量する。なお、症状により1日50mgを超えない範囲で適宜増減する。社会不安障害:通常、成人には1日1回夕食後、パロキセチンとして20mgを経口投与する。投与は1回10mgより開始し、原則として1週ごとに10mg/日ずつ増量する。なお、症状により1日40mgを超えない範囲で適宜増減する。外傷後ストレス障害:通常、成人には1日1回夕食後、パロキセチンとして20mgを経口投与する。投与は1回10~20mgより開始し、原則として1週ごとに10mg/日ずつ増量する。なお、症状により1日40mgを超えない範囲で適宜増減する。					
						表面	裏面	側面		
製	品	Ø		状		直径(mm)	質量(mg)	厚さ(mm)	識別表示	
			性		パロキセチン錠20mg「オーハラ」	0H59 20mg	0H59 20mg		OH-59	
					帯紅白色・フィルムコーティング錠	8.1	338	4.8		
			評	_	品質再評価に指定されていない。					
公	的)	] 溶出試験 日本薬局方パロキセチン塩酸塩錠に従い試験するとき、45分間の溶出率が75%以上であった。								
標同	準	品等	٤	の性	溶出試験(試験液:水/75rpm)  100 80 (%) 60 90 30 60 時間(min) 「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイ両製剤の溶出挙動は類似していると判定欄)。		-○-パロキセチン錠20mg「オーハラ」 -◆-パキシル錠20mg 平均値±S.D., n=21			
安	定巾	生 (	加退	<u>(</u>	40℃±1℃、75%RH±5%RH、6ヶ月(性状、硝	式験、溶出試験、定量)	験、溶出試験、定量) 適合			
<b>.</b>		_		性)	加温[40℃、3ヶ月(遮光、気密容器)] 加湿[30℃、75%RH、3ヶ月(遮光、開放)]		性状、純度試験、	全て変化なし。		
	無	定包	装				溶出試験、定量、	全て変化なし。		
	NΙΚ				爆光[総照射量:120万lx•hr(開放)]		硬度	全て変化なし。		
備				考	pH1.2、pH5.0及びpH6.8(いずれも75rpm)においても、両製剤の溶出挙動は類似していると判定された。					
担	当者	者、連絡先								